

# 展勝地風土記

Vol.35

令和3年4月23日

展勝地開園100周年記念事業実行委員会  
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-8279

展勝地開園100周年記念事業実行委員会で、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的なこと、地理的なこと、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。今回は令和3年7月21日に発行します。

## みちのく民俗村周辺の生き物調査

### 環境教育インストラクター

鈴木 清明

昨年4月から、みちのく民俗村を中心に周辺の調査を始めましたが、植物の種類の多さにビックリしました。4月だけで81種類もの開花を見ることができ、年間を通すと400種以上に及ぶものと思われまます。国見山・珊瑚岳などを



みちのく民俗村桜の季節

含む広範囲な地域一帯を調べれば、さらに多くの実態を知ることができると思えます。

みちのく民俗村周辺には、微毒のエゾユヅリハ、有毒のシキミヤトリカブトなどシソ科の香気に富むものから、クマツヅラ科のクサギ（現在はシソ科に分類）のよう

に悪臭を発するものまであります。また、トウダイグサも多く、その仲間は有毒で皮膚炎、嘔吐、腹痛、下痢、痙攣などを引き起こします。このように有毒な植物が多



ヒオウギ



トリカブト

く見られるのもこの周辺の特徴です。毒草は薬としての役割もあり、この一帯が極楽寺との関わりがあることを示す証とも考えられます。

極楽寺ではシマカンギク、ヒオウギ、イチハツ、シャガ、メノマンネグサなどを医療用のほか、鍼灸、浴湯、呪術、平癒祈願などに使用していたといわれています。なお、メノマンネグサは日本海側の海岸の岩場で多く見られる植物ですが、なぜここに植生しているのかはつきりしたことは分かりません。



メノマンネグサ

調査の中で気付いたのは、シソ科の植物が多かったことです。キランソウ、ヒキオコシ、トウバナ、

ヤマハツカ、ウツボグサ、ジユウニヒトエ、タツナミソウ、ラショウモンカズラなど多数確認されています。

その中でもキランソウは、別名を「地獄の釜の蓋」といいます。咳、解熱などに薬効があり、病魔に冒された人がこれを煎じて飲むと病気が治まり、地獄の釜の蓋が閉まって死なずに済むということから名付けられたそうです。また、ヒキオコシは、空海（後の弘法大師）が倒れていた修験者にヒキ



ヒキオコシ



キランソウ



ハンゲシヨウのある風景

オコシの汁を飲ませたら元気になったという話もあり、戦時中、全草を粉末にして「延命草」という名前でも広く販売されたそうです。シソ科以外では、エンレイソウも多く見られます。漢名では延齡草、延命草、養老草などと呼ばれ、古くから薬草として使用されています。いくつかの場所で群生して見られたセリバオウレンは、根が黄色いことから黄蓮といわれています。胃薬、健胃整腸薬、下痢止めの主材料として使われるほか、



エンレイソウ



エイザンスミレ

眼病などの薬効があるといわれています。ハンゲシヨウは、花があまりにも地味なので昆虫を誘うことができませぬ。そこで、花に近い葉を半分ほど白く「半化粧」して昆虫たちを引き寄せ、受粉させようとするなど面白い特徴を持っています。また、エイザンスミレは滋賀県の比叡山に生育していることから付いた名前です。比叡山の延暦寺は天台宗の総本山で、多くの高僧・名僧がこの寺で修行したといえます。このエイザンスミレも裏山にひっそりと咲いています。古を感じながら自然観察するのも楽しいでしょうね。

このみちのく民俗村一带は、自然が多く残されています。その証しとして、岩手レッドデータ（絶滅危惧）Aランクのキンランやヤマシャクヤクのほか、B・Cランクのものなど相当数の植物が残っています。



ヤマシャクヤク



キンラン

また、その植物を食料とする昆虫類、そして昆虫類を食料とする野鳥類も驚くほど多数にいます。また、その植物を食料とする昆虫類、そして昆虫類を食料とする野鳥類も驚くほど多数にいます。また、その植物を食料とする昆虫類、そして昆虫類を食料とする野鳥類も驚くほど多数にいます。

「花 無心にして蝶を招き 蝶無心にして花を尋ぬ 花 開く時、蝶 来り 蝶 来る時、花 開く吾れも 亦人を知らず 人も亦吾れを知らず 知らずして帝の則に従う」

私は、この良寛の漢詩の中に潜んでいる自然の摂理がとても好きです。花と蝶の関係を例え、分かりやすく教えています。自然界は、全て自然の法則に従っているということも教えているようです。

**筆者プロフィール**

**鈴木清明**

1946(昭和21)年生まれ、北上市在住。高校教員退職後、趣味を生かしてバードウォッチングガイド、いわて自然公園特派員、県自然公園保護管理員など自然と親しむガイド役として活動。自らも制作するバードカービングの講師や、みちのく民俗村自然観察会講師を務め、展勝地周辺の植物を調査観察中。



ヒガンバナ咲く民俗村

わたることに気付きました。植物は多くの「動物の食料」といわれ、その植物の凄さと巧も知る事ができました。